

校外行事での学び

校長 八木澤 龍馬

校外学習は、9月、5年生の自動車工場見学と藍染体験から始まり、1月、6年生の東京都内での社会科見学まで続きますが、現在、5つの学年で7つの行事を終えました。

それぞれの校外学習は、各学年児童の成長と授業内容に合わせて、目標を設定します。低学年は自然に親しみながら、集団行動の基本を身につけ、自立心を養うことを目指し、中学年・高学年は、社会科の授業とリンクしながら、日本の産業や文化について学ぶことを目的としています。生きた動物、自然を利用した遊びを通して学ぶ施設、人々の生活と日本の経済を支える工業施設、水を管理し農業と暮らしを支える利根大堰、藍染や人形作りなどの伝統文化、本物を見て、触れて、体験することによって、教室ではできない感動を味わい、感動を通して学ぶことが目的です。子どもたちは、とても楽しみにしています。

子どもたちにとって、学校を離れるということが感動を膨らませる大きな要因です。「学習の場が校外になっただけ、あくまでも授業」と、先生は子どもたちが羽目を外さないように、注意を促します。もちろんこの言葉がけは必要です。しかし、バスで出かける、バスレクやおやつタイムがある、仲間との語らいがある、わくわくして当然です。遠足や社会科見学の前の晩はよく眠れなかった。年齢を重ねても、行事前の高揚感を懐かしく思い出します。そういう気持ちの高まりの中で、子どもたちがもつ感覚はますます研ぎ澄まされて、情報を吸収し、現地だからこそ達成できる深い学びへとつながっていくのです。どの学年もよく頑張りました。行事を終えた後、成長したな、と手応えを感じます。

その中で、6年生と5年生の頑張りを紹介したいと思います。

6年生の修学旅行と5年生の自然の教室は、10月に実施しました。宿泊を伴う校外行事で、子どもたちにとっても学校にとっても、特に大切にしている行事です。校長は二つの旅行に引率責任者として同行しましたが、6年生と5年生、大谷口小学校の高学年としてとても立派に行動できました。

まず、当日、体調を崩した欠席者がいなかったこと。日頃の健康管理と行事に向けての意欲づけが、適切であったのでしょう。旅行に向けて準備万端整えてくださった、保護者の皆様のご努力に敬意を表します。次、現地での健康面でのトラブルがなかったこと。代表的なものは、班行動やトレッキング、キャンプファイヤーなど、中心となるイベントには、全員が完璧に参加できたといえます。きちんと食事をとり、夜も(まずまず)行儀よく睡眠をとりました。よい生活習慣が健康を保ち、すべての日程をきちんとこなす基本となりました。礼儀正しく行動し、体験活動にも熱心に取り組み、話を聞く姿勢もたいへんしっかりしていました。特に5年生は、初めての宿泊行事での集団行動で戸惑い、失敗もありましたが、1日目より2日目と経験を重ねて課題を克服し、確実にレベルアップできました。これからの学校生活にぜひ生かして、下級生のお手本になってほしいと思っています。

遠足の朝、子どもたちは、少しの不安と大きな期待をこめて登校し、そして、多くの経験と思い出をお土産に帰宅するでしょう。「あのね、今日ね」と、語り始めたら、ぜひ、お話を楽しく聴いてください。思いを言葉にすることで、経験が学力として定着します。校外学習の仕上げには、お家の方の暖かな傾聴と肯定が、何よりも効果的です。